PLAN

東播磨　農業の夢と創造

ビジョン委員の皆さんをはじめ、
多くの皆さんと連携して活動します。

代表：富木　攻委員

東播磨は、臨海部は工業と漁業、中央部は商業と住宅、内陸部は農業地帯となっており、農業は米、麦、野菜を中心とした都市近郊型農業が営まれています。日本の農業は、厳しい経営環境や後継者難の問題などから、将来が見通せない極めて困難な状況に立ち至っています。

私たちの取り組みは、農業者や消費者、企業、行政の皆さんと、担い手づくりや農業基盤の確立についての話し合いを進めるとともに、東播磨の農業を考える情報発信を進めます。

これまでの取り組みとして、**地域の農業団体や営農組合間の話し合い、大学生の農業体験と農業問題議論の実施**、農業者と消費者が一緒に開催する**「地産地消料理教室」**、JAと地域による**「そば打ち道場」**など、多くの人との交流を通じて農業問題の議論を進めています。

大学生の農業体験では、種まきから田植え、草刈りや除草、稲刈りまでの流れを体験してもらいました。また、農業に欠かせない水を溜める「ため池」では、11月10日に小学生から大学生を中心に約800人が参加して、**「ため池環境学習会」**と**「カイボリ」**（魚とり）を行いました。

地域のいろいろな活動グループとの連携を図るとともに、東播磨地域ビジョン委員会の実践グループとの連携を密にして、多くの皆さんに参加いただくよう努力をしていきます。

コスモス祭りとオーナー農園の
サツマイモ収穫祭

PLAN

東播磨の豊かな水辺を守り伝える

代表：畠山　恵子委員

東播磨地域には県下最大の加古川をはじめ、約600のため池やそれにつながる水路、そして、海岸に面した海辺などがあります。そこで、地域の自然や歴史・文化を育んできた豊かな水辺を多くの人と共有しながら、次代につなぐことを目的に活動を進めていきます。

具体的には、河川、ため池、海辺の管理者と地域住民との「語ろう会」の議論を踏まえ、学識者を交え新たなプランを生み出す議論の場とする**「水辺検討会議」**を開催します。

また、流域の歴史・文化、遺産、水辺環境の保全をテーマにした「流域文化サロン」に学ぶとともに、小学生による環境学習発表会を図るなど、子どもの時から水辺への関心を高める機会づくりに努めます。

さらに、貴重な生物が生息する加古川河口干潟をエコミュージアムに見立て、豊かな水辺を体感する**「環境体験学習のひろば」**を他団体と連携して開催します。

10月25日開催

「海浜植物の保全にむけて～ハマボウフウの種まき～」

加古川河口の砂州に生育する海浜植物を保全しようと、メンバー10人で海浜植物ハマボウフウの種まきを行いました。かつてハマボウフウは河口部砂州周辺で多く見られましたが、砂州は洪水で消失するなど不安定な場所であり、また、近年は外来植物の侵入や、上流から運ばれる栄養分を大量に吸収したテリハノイバラの急増もあって、消滅の危機状況にあります。

そこで、テリハノイバラの株と枝の除去に努め、砂地を耕し、夏の終わりに採取したハマボウフウの種をまくことにしました。作業を終え、「春になったら発芽を確認しよう」と話しています。

砂浜が減少した今日、加古川河口の生育地は県内でも貴重な場所であることから、多様な生物が生息する河口干潟と合わせ、エコミュージアムとして保全を進めていきます。

PLAN

東播磨　わらしべ長者義塾

代表：丸谷　聡子委員

東播磨地域の宝物（地域資源）をより多く掘り起こし、それを社会的課題解決に生かし、よりよい地域社会の実現をめざすため、市民活動力アップのために効果的な企画手法について学ぶ講座や、地域の小さなお宝探しや地域課題について考えるワークショップを開催します。さらに、講座を通して生まれた企画を実現するための支援を進めていきます。